

【10月の気象】

朝夕の肌寒さを感じる季節となってきました。天気は周期的に変わり、移動性高気圧に覆われて秋晴れになることが多い月です。

しかし、まだ台風の時期は終わっていません。平成26年(2014年)の10月には、台風第18号と第19号の2つの台風が日本に上陸しました。台風第18号が四国の南海上を通った際、南予が暴風域に入り、宇和島市で強風による軽傷者1名、高压線の断線1件、フェリーの欠航が多数発生しています。

台風第19号は13日08時半頃に鹿児島県枕崎市付近に上陸、愛媛県では、四国中央市で2名が亡くなり、久万高原町で重傷者1名、西条市で床下浸水2棟などの被害が発生しています。

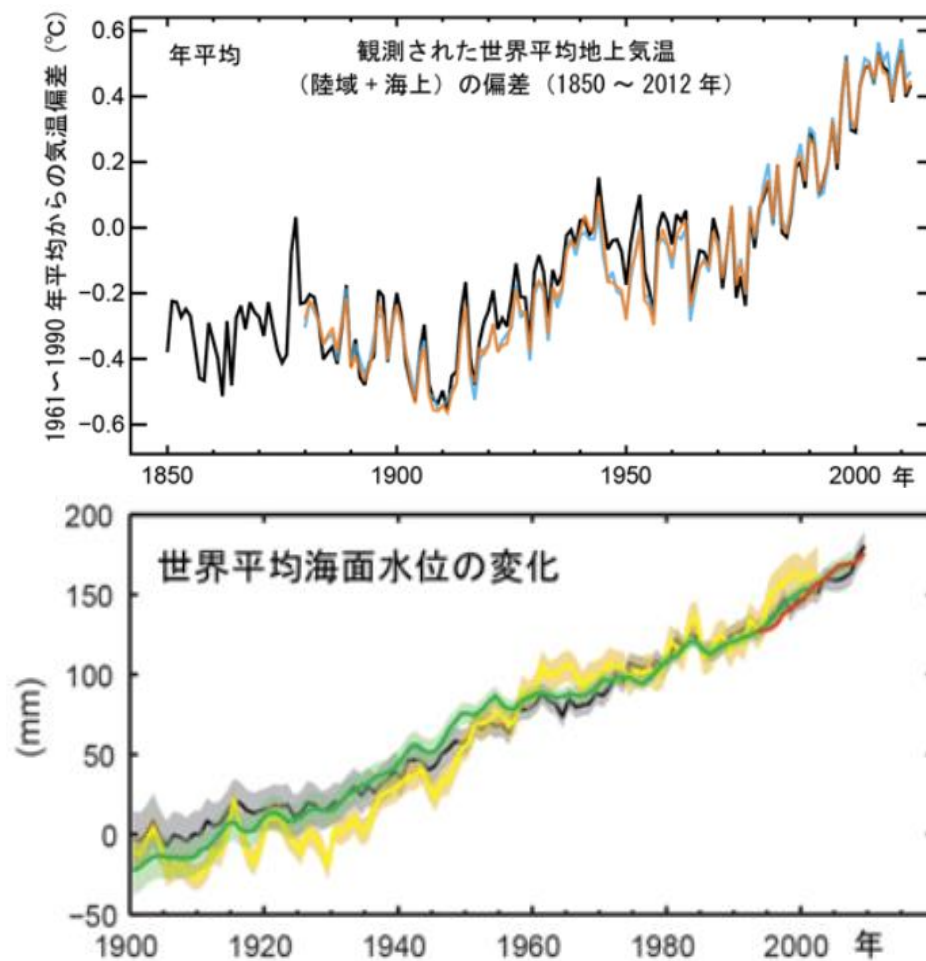
台風の接近がTV等で報道されだしたら、台風情報を積極的に入手し、早め早めの台風対策や避難を心がけてください。

台風情報はこちらです → <https://www.jma.go.jp/jp/typh/>

【気象用語】「地球規模の気候の変化」とは

地球温暖化に伴うものと考えられる様々な地球規模の変化が以下のように観測されています。

- 1850年以降の記録からは、平均気温の上昇傾向。
- 水温上昇に伴う海水の膨張・氷床や氷河が融けて海に流れ込むなどで、海面水位の上昇。
- 北半球の積雪面積や北極海の海水面積の減少。



(上) 世界平均地上気温、(下) 潮位計と人工衛星データによる世界平均海面水位の変化。気温の変化は、1961~1990年の平均からの差。色はデータセットの違いを表す。(IPCC第5次評価報告書より)